

## 乳幼児の食行動に影響を及ぼす養育条件に関する研究

(分担研究：小児期の成長・発達と養育条件に関する医学的、心理学的及び  
社会学的研究)

八倉巻和子\*、村田輝子\*、森岡加代\*、大場幸夫\*  
大森世都子\*\*、高野 陽\*\*、高石昌弘\*\*\*

### 要約

乳幼児の食行動と母親の養育条件との関連について、地域別に検討した。

調査対象は秋田・千葉・東京・富山・岡山県の保育所に通園している0～6歳児1185名。

調査時期は昭和61年10月下旬から11月上旬に実施。

結果は次のとおりである。

1. 生活状況： 核家族は千葉と東京、三世代家族は秋田が高率である。有職主婦は東京と千葉、専業主婦は岡山が高くなっている。1人子、第1子は東京と千葉に多くみられる。
2. 生活行動： 秋田は朝早く起床し、夕食や就寝時刻も早い傾向がみられる。
3. 食事状況： “全員で食事をする、は秋田に多く、“一人食べ、は東京の朝食にみられる。
4. 食事のトラブル： トラブル有の出現率は千葉・東京・岡山が70%で秋田は少ない。年齢別では、東京と千葉が大きい年齢に、他の地域は小さい年齢に出現している。
5. 母親の養育態度： 児に対する愛情項目は東京、対応項目は岡山と千葉、環境項目は秋田が高率である。養育点数では秋田が最も高く、岡山、東京、千葉、富山の順である。
6. 食事のトラブルは祖母との同居、母親の職業の有無とに有意差が認められる。

見出し語：乳幼児、食行動、養育条件

### I はじめに

乳幼児の食事に関する行動は、生活環境や母親の養育態度に関係すると考えられる。

昨年度は、乳幼児を年齢別に検討し、乳幼児の食事上のトラブルと母親の養育条件との関連について考究した<sup>1)</sup>。本年度は、引き続き地域別に検討した。

### II 調査対象および方法

調査対象：対象は表1に示すとおり、秋田・千葉・東京・富山および岡山県の保育所に通園する0歳から6歳の乳幼児1185名(表2)であ

表1 調査対象地域

地域	調査保育所	本報告中の略称
秋田県	烏海町	3園 秋田
千葉県	船橋・松戸市	6園 千葉
東京都	文京・板橋・世田谷・杉並・葛飾区	6園 東京
富山県	滑川市	6園 富山
岡山県	笠岡市、浅口郡	2園 岡山

\* 大妻女子大学家政学部 (Faculty of Home Economics, Otsuma Women's Univ.)

\*\* 国立公衆衛生院母性小児衛生学部 (Dept. of Maternal and Child Health, The Institute of Public Health)

\*\*\* 国立公衆衛生院 (The Institute of Public Health)

表2 調査対象

保育所 (名)						
年齢(歳)	秋 田	千 葉	東 京	富 山	岡 山	合 計
0	0	5	7	1	0	13
1	1	25	28	14	12	80
2	8	44	32	22	32	138
3	18	60	52	35	46	211
4	42	78	41	53	66	280
5	72	75	32	39	59	277
6	40	73	13	26	34	186
合 計	181	360	205	190	249	1185

幼稚園						
合 計	—	—	97	339	411	847

表3 回収結果

配布数	1595 票
回収率	76.0%
有効数	1185 票

表4 アンケート調査項目

1. 身長・体重
2. 授乳期の栄養法
3. 生活状況
4. 食事状況
5. 食事トラブル
6. 母親の養育態度

る。なお、表2には比較のため、昨年度報告に含まれる幼稚園児を示した。

調査時期：調査は昭和61年10月下旬から11月上旬に実施した。

調査方法：方法は所定の調査票を作成し、保育所を通して母親に配布、留置記入後回収した。回収結果は表3のとおりである。

調査項目：項目は生活状況、食事状況および食事行動など表4に示すとおりである。

### Ⅲ 調査結果

#### 1. 身長および体重

対象児の身長と体重を評価するため、厚生省値<sup>2)</sup>(昭和55年乳幼児身体発育値)の75パーセントイルを越えるものを「A」、75～25パーセ

ンタイルを「B」、25パーセントイル未満を「C」の3区分に分類した。その結果は表5に、身長と体重の組み合わせは表6に示すとおりである。

地域別にみると、身長は秋田に、体重は富山に「A」区分が多い。岡山は身長・体重ともに「C」区分が他の地域に比べ多くなっている。

身長と体重の組み合わせでは、富山と秋田に「AA」、岡山に「CC」の比率が高い。

以上のことから、対象児の体型については、「東高西低あるいは北高南低、の全国的傾向と類似していることがわかる。

表5 身長・体重のパーセントイル区分(%)

		地 域	A	B	C
身 長	身	秋 田	51.3	36.5	12.2
		千 葉	46.6	42.5	10.9
		東 京	45.8	41.3	12.9
		富 山	45.8	39.8	14.4
		岡 山	30.2	45.2	24.6
	合 計	43.6	41.5	14.9	
体 重	体	秋 田	43.9	43.9	12.2
		千 葉	42.0	42.4	15.6
		東 京	42.6	43.9	13.5
		富 山	48.1	41.4	10.5
		岡 山	31.7	48.2	20.1
	合 計	41.2	43.9	14.9	

A. 75パーセントイルを越えるもの

B. 75～25パーセントイル

C. 25パーセントイル未満

表6 体型（身長・体重） (％)

身長・体重	秋田	千葉	東京	富山	岡山	合計
A	36.5	34.9	29.0	38.2	21.1	31.8
A B	13.5	10.8	15.5	7.9	9.0	11.3
C	1.4	1.1	1.3	0	0	0.4
A	6.1	7.1	13.5	9.2	10.1	9.1
B B	27.7	26.8	22.6	27.6	27.6	26.6
C	2.7	8.5	5.2	3.3	7.5	6.1
A	0.6	0.3	0	1.3	0.5	0.5
C B	3.4	4.4	5.2	5.9	11.6	6.1
C	8.1	6.1	7.7	6.6	12.6	8.1
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

- A. 75パーセンタイルを越えるもの  
 B. 75～25パーセンタイル  
 C. 25パーセンタイル未満

## 2. 授乳期の栄養法

授乳期の栄養法については、母乳・人工・混合の比率を調べた（図1）。

各地域とも、月齢が進むに従い母乳栄養が減少し、人工栄養が増加している。混合栄養については、秋田が他の地域に比べ高率である。岡山は母乳栄養の比率が他の地域より高く、母乳推進運動の成果と推察される。

栄養法について保育所児と幼稚園児との相違をみると（図2）、東京と岡山では幼稚園児の母乳栄養の率が保育所児のそれと比べ高く、富山では幼稚園児の母親であっても就労率が高いためか、栄養法に差はみられない。

## 3. 生活状況

### (1) 家族構成と母親の職業

対象児の家族構成と母親の職業は図3に示すとおりである。

家族構成について、核家族は千葉（76.9％）と東京（76.6％）が多い。祖母のいる三世大家族は秋田が85.1％と最も多く、次いで岡山、富山の順である。

職業を持つ母親は千葉96.0％、東京95.0％と高率で、次いで秋田、富山、岡山の順である。専業主婦が多いのは岡山であり、他の地域と異なった傾向を示している。

母親の職業の有無を児の年齢別にみたのが表7である。

秋田および富山では、児の年齢が3歳になると、また千葉および東京では4歳になると母親の就労率が一旦減少し、5歳以降で再び就労率が高くなっている。岡山は、年齢が進むに従い母親の就労は減少している。

### (2) きょうだい数と出生順位

きょうだい数は図4に、出生順位は表8に示すとおりである。

平均きょうだい数は秋田・富山・岡山の2.3人に比べ、東京と千葉は1.9人である。1人子は東京と千葉では約3割を占めており、3人以上は秋田42.0％、岡山37.8％と他の地域に比べ高くなっている。

対象児の出生順位をみると、第1子は東京47.1％、千葉45.9％であり、第2子以上は富山・岡山・秋田に多い。

### (3) 生活行動

対象児の生活の中で、起床と就寝と食事の行動を時間帯でみたものが図5である。

起床と朝食のそれぞれの時間帯は接近しているが、夕食の時間帯と就寝の時間帯との間隔はかなり開いている。

起床時刻をみると、秋田と富山の児の起床は比較的早く、東京では8時台の起床もみられる。特に、秋田では起床時刻が他の地域より早い傾向がみられる。

朝食は各地域とも7時台が最も多い。しかし、

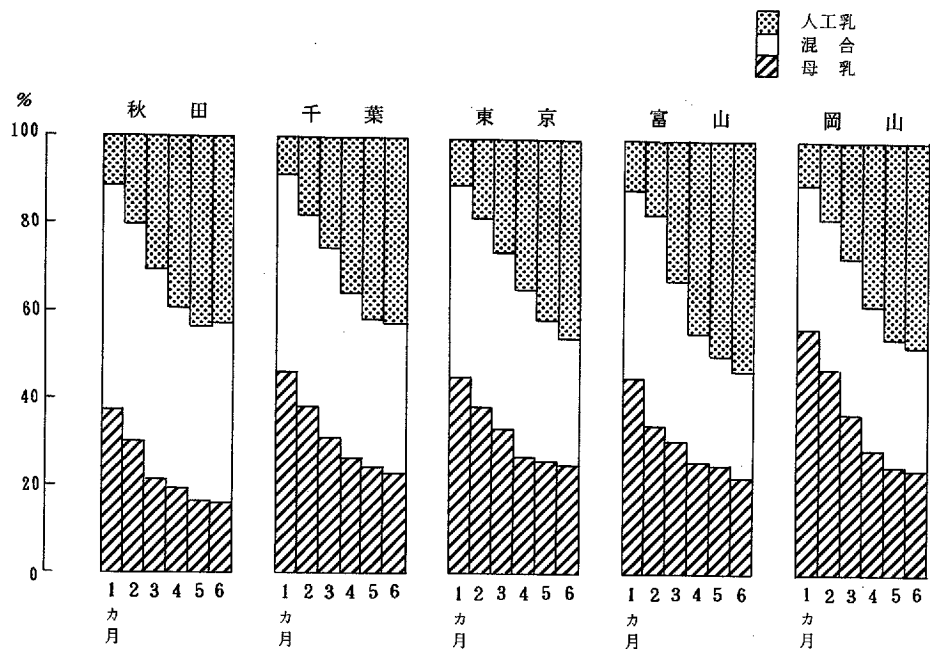


図1 授乳期の栄養法 (保育所)

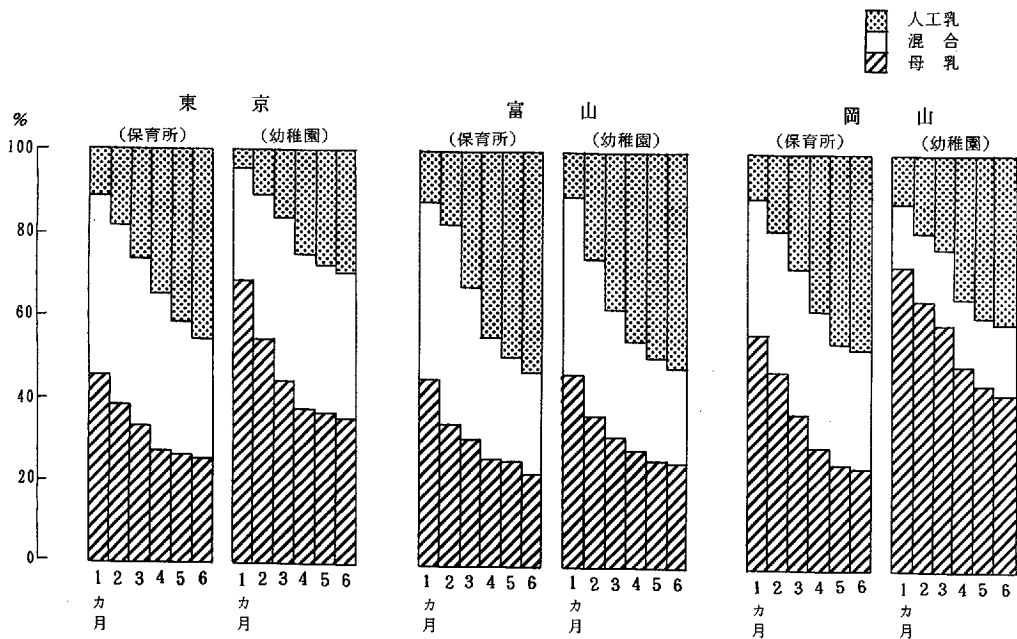


図2 授乳期の栄養法 (保育所・幼稚園の比較)

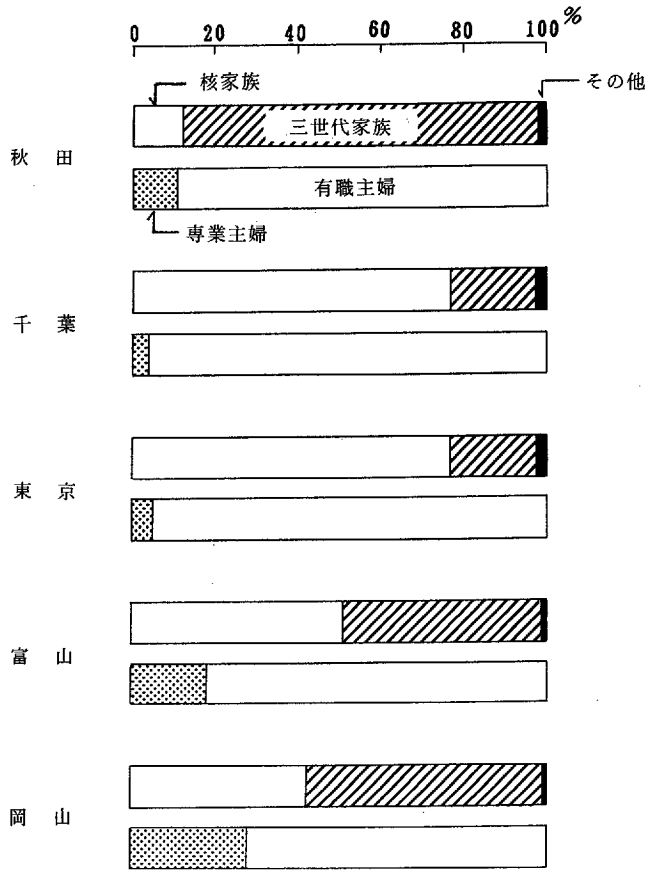


図3 家族構成と母の職業

表7 年齢別 母親の職業の有無

(実数) %

地域 職業 年齢(歳)	秋 田		千 葉		東 京		富 山		岡 山	
	有	無	有	無	有	無	有	無	有	無
0			(2)	(1)	(6)	(0)	(1)	(0)		
1	(1)	0	(25) 100.0	(0)	(26) 100.0	(0)	(5)	(0)	(12) 92.4	(1)
2	(7)	(1)	(43) 97.7	(1)	(29) 100.0	(0)	(17) 85.0	(3)	(27) 84.4	(5)
3	(18) 85.7	(3)	(56) 94.9	(3)	(48) 96.0	(2)	(26) 76.5	(8)	(35) 79.5	(9) 20.5
4	(35) 87.5	(5)	(53) 93.0	(4)	(38) 92.7	(3)	(41) 78.8	(11) 21.2	(47) 69.8	(19) 30.2
5	(66) 93.0	(5)	(67) 91.8	(6)	(27) 93.1	(2)	(27) 77.1	(8)	(36) 67.9	(17) 32.1
6	(32) 94.1	(2)	(73) 98.6	(1)	(12) 92.3	(1)	(23) 88.5	(3)	(26) 66.7	(13) 33.3

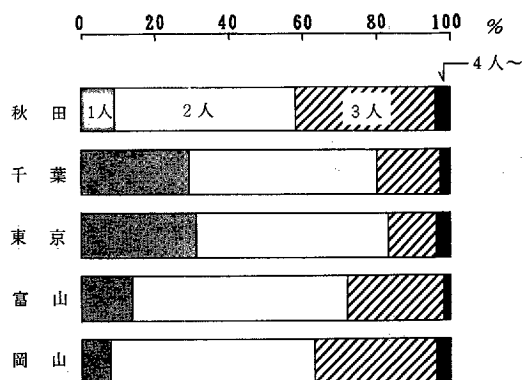


図4 きょうだい数

表8 出生順位 (%)

	秋田	千葉	東京	富山	岡山
第1子	37.6	45.9	47.1	36.5	37.4
第2子	36.5	41.0	38.7	42.8	42.9
第3子	24.9	11.9	11.7	19.6	18.1
第4子以上	1.0	1.2	2.5	1.1	1.6

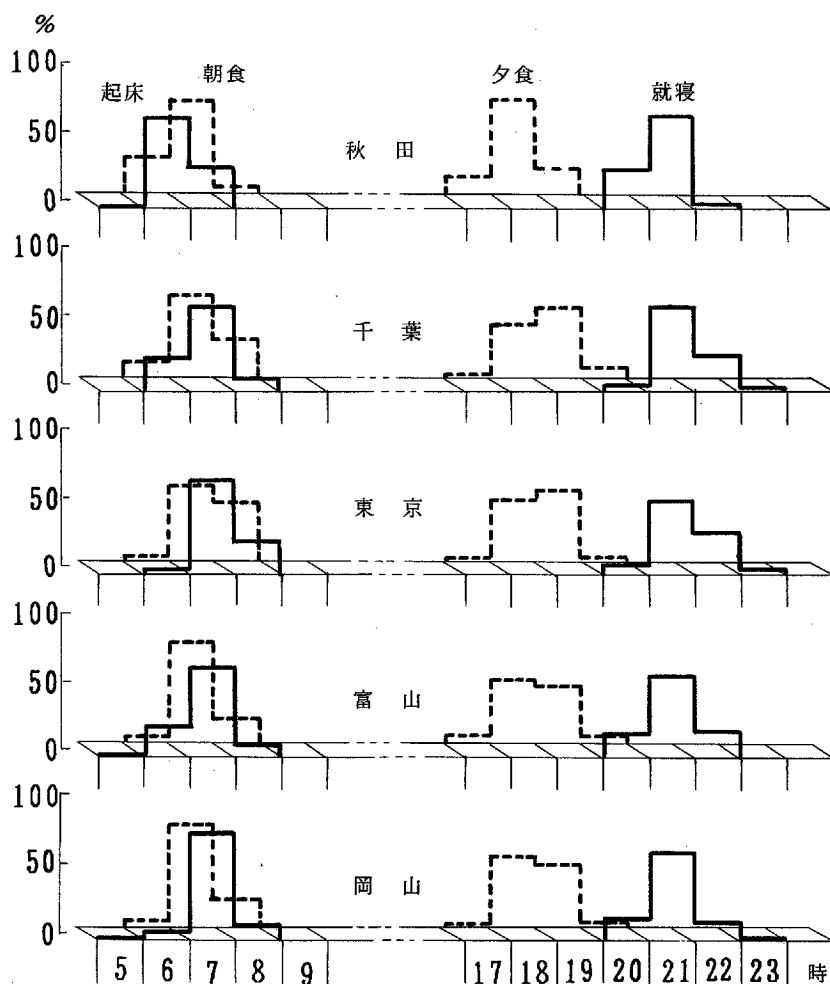


図5 起床・就寝・食事の時間

東京では8時台に食事をしている児もかなりみられる。

夕食は18時台～19時台に食べている児が多い。秋田は他の地域と異なり早い時間に食事をすませる児が多くみられる。

就寝時刻は各地域とも21時台が多いが、23時台に就寝する児もいる。

秋田は朝早く起床し、夕食や就寝時刻も早いなど、他の地域と異なった傾向である。

#### 4. 食事状況

##### (1) 食事を一緒にする

対象児が「家族全員で食事をする、か、あるいは「一人食べ、かの状況は図6に示すとおりである。

「家族全員で食事をする、についてみると、朝食は秋田48%、他の地域30%前後である。

夕食は朝食と比べ「家族全員で食事をする、が高くなっており、特に、秋田は74.4%と高い。しかし、東京では「全員で食事をする、はわずか%にすぎない。

「一人食べ、は朝食に東京3.6%、富山2.4%、秋田2.2%みられる。夕食にはほとんどみられない。

##### (2) 食事の状態

対象児の食事の状態は、図7に示すとおりである。

「テレビをみながら、食事をしている児は東京40%、富山38%とやや高くなっている。

「遊びながら、と「懸命に、は各地域とも少ない。「おしゃべりをしながら、は各地域とも高く、富山・東京・岡山が千葉と秋田に比べ高率である。

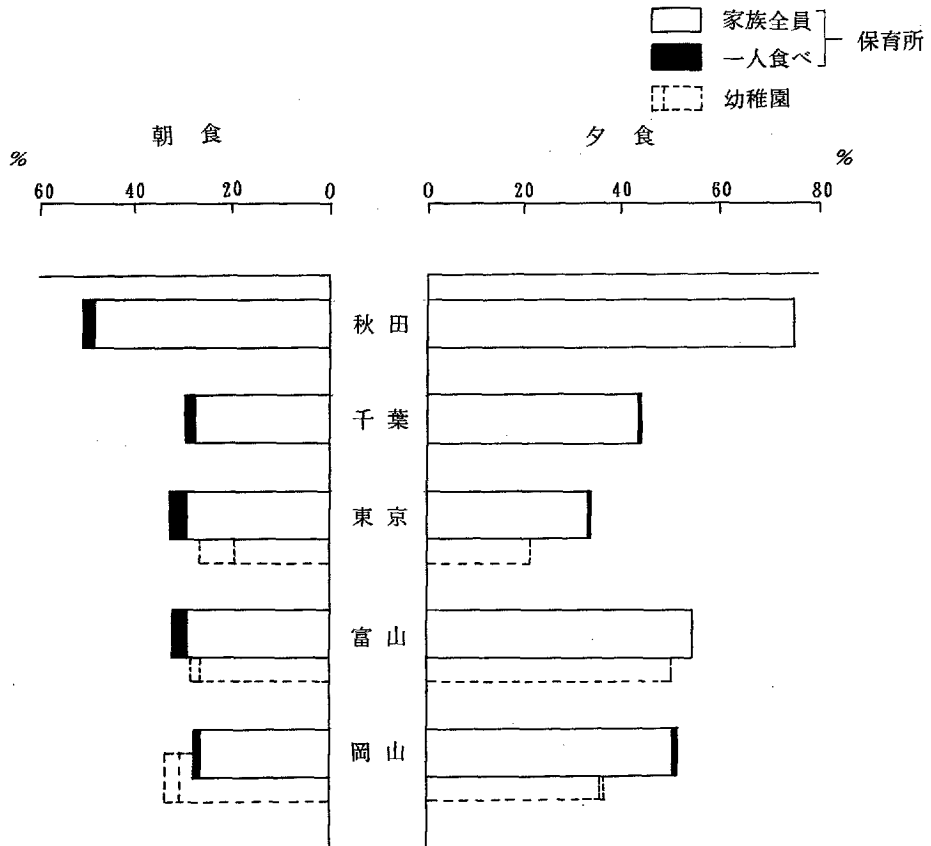


図6 食事を一緒にする

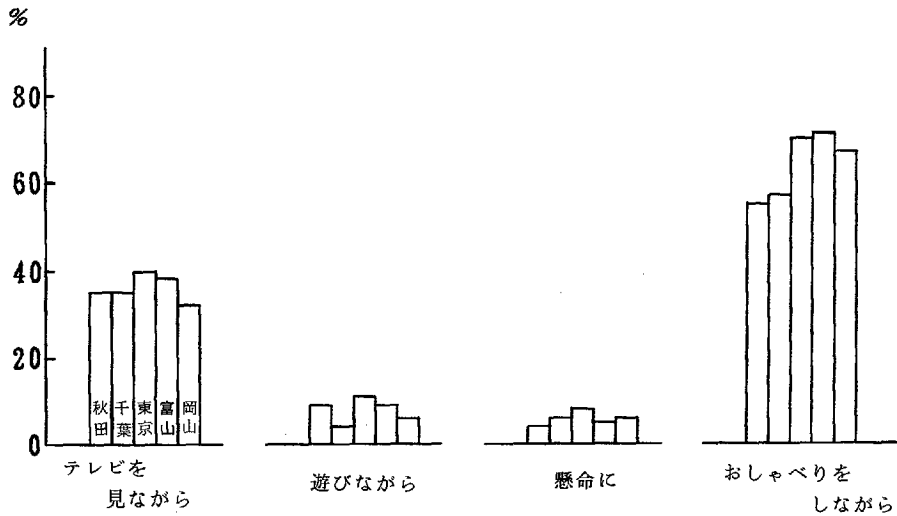


図7 食事の状態

(3) 食事に関する注意

普段の食事について、注意している事柄を表9に示す。

注意している事柄は各地域とも「栄養に気をつける」が第1位を示し、次いで「家族のだんらん」となっている。しかし、秋田だけは「家族のだんらん」を第1位としている。

表9 食事に関する注意 (%)

	秋田	千葉	東京	富山	岡山
好きなものを作る	3.7	1.1	1.7	1.5	1.3
栄養に気をつける	34.0	63.4	58.1	54.1	49.1
なるべく手間をかける	5.9	5.3	7.7	7.1	5.9
経済に重点をおく	6.4	3.9	2.7	1.1	5.5
家族のだんらん	45.7	21.9	27.7	29.6	33.9
その他	4.3	4.4	2.1	6.6	4.3

(4) おやつ配慮

おやつの与え方についての配慮は図8に示すとおりである。「時間を決めている」、「栄養に注

意する」、「甘いものに気をつける」、「手作りで与える」、「子どもに選ばせて買う」、「楽しい雰囲気食べさせる」の6項目をあげ、そのうち2項目を選択してもらった。

「甘味」は各地域とも高く、次いで「時間」と「雰囲気」の順であげられている。しかし、「栄養」、「手作り」、「買食い」は少ない。

おやつの「時間」を決めている割合は岡山が51.5%と高く、秋田は29.7%とかなり低い。「栄養」に気をつけるは千葉が、「甘味」は富山が高率である。「手作り」は各地域でばらつきがみられるが秋田は22.7%と高い。「買食い」は秋田に、「雰囲気」は秋田と東京が比較的高い。

5. 食事に関して問題となる食行動(食事トラブル)

(1) 食事トラブルの有無と年齢別出現率

本報告では、乳幼児の食事に関して問題となる食行動を、簡略に表現するため一応「食事のトラブル」とした。

すなわち、表10に示した項目を食事トラブルの項目とし、複数で回答してもらった。

なお、0～2歳児については例数が少ないため除外した。

食事トラブルの出現率は表11に示すとおりで



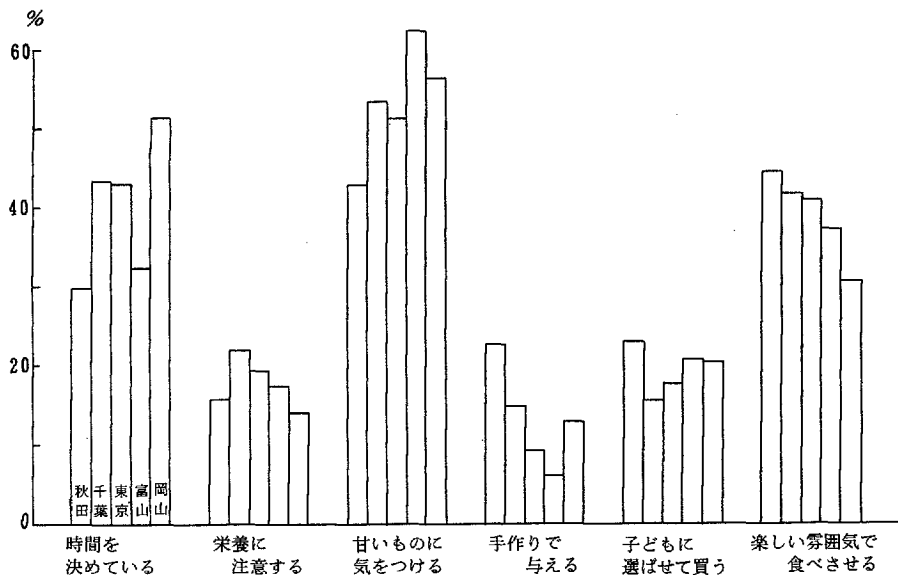


図8 おやつ配慮

表10 食事トラブルの項目

かめない
のみこめない
アレルギー
遊び食べ
食事中さわぐ
食べすぎ
食欲なし
はしが使えない
食べ方が遅い
早食い
買食い
菓子ばかり食べる
偏食
姿勢が悪い
少食
ちらかし食べ
その他

表11 食事トラブルの有無と年齢別出現率

		(実数) %				
地 域		秋田	千葉	東京	富山	岡山
合 計		(181) 100.0	(360) 100.0	(205) 100.0	(190) 100.0	(249) 100.0
有	無	(67) 37.0	(102) 28.3	(46) 22.4	(43) 22.6	(76) 30.5
	有	(114) 63.0	(258) 71.7	(159) 77.6	(147) 77.4	(173) 69.5
		トラブル有の年齢別 (実数) %				
年 齢 別	3 歳	(12) 66.7	(40) 66.7	(39) 66.7	(32) 91.4	(34) 73.9
	4 歳	(27) 64.3	(58) 74.4	(33) 80.5	(44) 83.0	(44) 66.9
	5 歳	(46) 62.5	(56) 66.1	(28) 87.5	(28) 71.8	(44) 71.2
	6 歳	(25) 63.5	(54) 71.7	(9) 69.3	(18) 69.2	(19) 55.9

ある。

トラブル有は東京77.6%、富山77.4%と高く、千葉と岡山に約70%みられるが、秋田は63.0%と他の地域に比べ出現率は比較的少ない。

トラブル有の出現率を年齢別にみると、年齢による差は少ないが、富山および岡山は3歳、千葉は4歳、東京は5歳が他の年齢に比べ高い

値を示している。

(2) 年齢別の食事トラブル数

年齢別にみたトラブル数の平均値は表12に示すとおりである。

トラブル数が多い年齢は東京・岡山では5歳、秋田では3歳、4歳、富山・千葉では3歳であるが、あまり大きな差はみられない。

表12 年齢別 トラブル数の平均値 (件数)

地域 年齢	秋田	千葉	東京	富山	岡山
3	2.6	2.7	2.3	2.6	2.2
4	2.6	2.5	2.3	1.9	2.0
5	2.5	2.6	2.6	2.0	2.5
6	2.0	2.4	2.1	1.8	1.9
合計	2.3	2.5	2.4	2.1	2.2

各地域のトラブル数の平均値は、富山が最も少なく、千葉と東京がやや多くなっている。

(3) 食事トラブルの種類

トラブル16項目のうち、出現率の順位が1位と2位の項目を表13に示す。

“遊び食べ、は各地域とも、それぞれの年齢にみられ、5～6歳になると“姿勢が悪い、が多くなっている。

地域別にみると、秋田と千葉では4歳まで“遊び食べ、が、5～6歳になると“姿勢、が出現する。東京では4歳までは“遊び食べ、が第1位であり、5～6歳では“少食、遅い、

“飲み込めない、などが出現している。富山では2歳、4歳、6歳に“食べすぎ、偏食、少食、など複数のトラブルがみられる。岡山では“遊び食べ、偏食、が上位に出現している。

6. 母親の養育態度

(1) 母親の養育態度別点数

母親の養育態度を検討するため、母親の児に対する愛情、接し方、そして環境について、それぞれ質問し、その中から表14に示す10項目を選択し、点数化を行った。

母親の養育態度10項目の点数は図9に示すとおりである。母親の養育態度を各項目別に検討すると、“ほおずりをする、“かわいがる、などの愛情の関連項目の点数は、東京がやや高い。児への接し方や対応の項目では、岡山と千葉の点数が高く、“近所づきあい、などの環境項目は秋田の点数が最も高率である。

(2) 児の年齢別、母親の養育点数の平均値

母親の養育態度10項目を総合して養育点数の平均値とし、その結果を児の年齢別に示したものが表15である。

表13 食事トラブルの種類

地域	2	3	4	5	6 歳
秋 田	① 遊び食べ	{ 遊び食べ 姿勢 お菓子 ちらかし食べ	遊び食べ  姿勢	姿勢  遊び食べ	姿勢  { 遊び食べ さわぐ
千 葉	① 遊び食べ ② 偏食	遊び食べ 少食	遊び食べ 姿勢	姿勢 遊び食べ	姿勢 遊び食べ
東 京	① 遊び食べ  ② ちらかし食べ	遊び食べ  { 遅い 偏食	遊び食べ  ちらかし食べ	{ 遊び食べ 姿勢 遅い お菓子 偏食 少食	姿勢  { のみこめない はし 遅い 少食
富 山	① 遊び食べ 食べすぎ はし お菓子 偏食	遊び食べ お菓子	遊び食べ { お菓子 偏食 姿勢 少食	姿勢 偏食	姿勢 { 遊び食べ 食べすぎ
岡 山	① 遊び食べ ② ちらかし食べ	遊び食べ 偏食	遊び食べ 遅い	遊び食べ 偏食	姿勢 { 少食 アレルギー

表14 子どもに対する母親の意識と態度の評価

望ましい	+	1
普通		0
望ましくない	-	1

1. 世話をするのが面倒
2. 世話をするのが好き
3. 相手をして遊ぶ
4. ほおずりをする、よく抱く
5. かわいいと思う
6. 食物の好き嫌いへの対応
7. ほしがるものは与える
8. 他の子と比べる
9. 近所との付き合いがよい
10. よその子を家に入れる

養育点数の平均値には年齢による差および地域による差があまりみられないが、全体を通し、東京の6歳は5.9と最も高く、富山の3歳が3.5と最も低い。

母親の養育点数を4分類し、児の年齢別に検

討した結果を図10に示す。点数の分類は7点以上を「A」、6～4点「B」、3～1点「C」、0点以下「D」とした。

秋田は年齢とともに「A」が増加し、千葉は「D」が減少している。富山は5歳まで「C」と「D」が減少し、6歳になると増加する。岡山は「D」はわずかで、他の地域と異なる傾向を示している。

地域別による母親の養育点数では、「A」と「C・D」との間に統計的有意差 ( $\chi^2$ 検定5%) が認められる。

### 7. 食事トラブルと養育環境との関連

養育環境としては祖母の同居、母親の職業の有無、母親の養育点数の3項目と児の食事トラブルとの関係について検討した。食事トラブルの数は0・1～2・3以上の3区分とした。

#### (1) 食事トラブルと祖母の同居

祖母が同居しているか・いないかの関係を地域別にみたのが表16である。

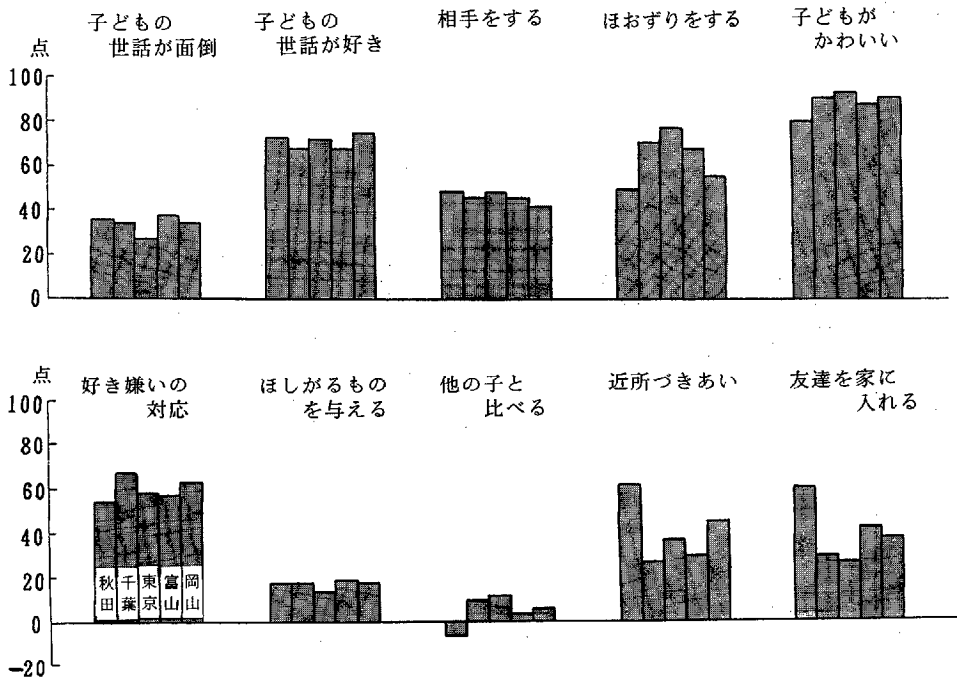


図9 母親の養育態度別点数

表15 年齢別 母親の養育点数の平均値

(実数) %

	秋 田	千 葉	東 京	富 山	岡 山
3 歳	(17) 4.8	(54) 4.5	(51) 4.9	(34) 3.5	(40) 5.1
4 歳	(38) 5.4	(69) 4.6	(39) 4.1	(53) 4.6	(66) 4.7
5 歳	(61) 5.1	(62) 4.3	(31) 4.4	(37) 4.3	(53) 5.0
6 歳	(36) 5.0	(62) 4.3	(8) 5.9	(26) 4.1	(34) 4.6
合計	(152) 5.1	(247) 4.4	(132) 4.5	(150) 4.1	(193) 4.8

祖母同居の場合、トラブルが無い児は地域別に比較すると、秋田が35.6%と最も高く、次いで岡山33.9%である。トラブルが3以上ある児は、東京と千葉ではそれぞれ約35%みられる。

食事トラブルと祖母との関係は、祖母がいる児にはトラブル無の比率が高く、有意差 ( $\chi^2$ 検定5%) が認められる。

(2) 食事トラブルと母親の職業

食事トラブルと母親の職業については表17に示すとおりである。

母親が職業を持っている場合、トラブル無の

表16 食事トラブルと祖母の同居

祖母同居

(実数) %

地域 トラブル数	地域					合計
	秋田	千葉	東京	富山	岡山	
0	(53) 35.6	(18) 25.0	(5) 14.7	(21) 26.9	(39) 33.9	(136) 30.4
1~2	(57) 38.3	(29) 40.3	(17) 50.0	(45) 57.7	(51) 44.3	(199) 44.4
3以上	(39) 26.1	(25) 34.7	(12) 35.3	(12) 15.4	(25) 21.8	(113) 25.2
合計	(149) 100.0	(72) 100.0	(34) 100.0	(78) 100.0	(115) 100.0	(448) 100.0

$\chi^2=17.97$   $P<0.05$

祖母いない

(実数) %

地域 トラブル数	地域					合計
	秋田	千葉	東京	富山	岡山	
0	(9) 39.1	(59) 27.8	(24) 23.3	(8) 11.1	(27) 30.3	(127) 25.5
1~2	(10) 43.5	(91) 42.9	(46) 44.7	(45) 62.5	(39) 43.8	(231) 46.3
3以上	(4) 17.4	(62) 29.3	(33) 20.0	(19) 26.4	(23) 25.9	(141) 28.2
合計	(23) 100.0	(212) 100.0	(103) 100.0	(72) 100.0	(89) 100.0	(499) 100.0

$\chi^2=15.55$   $P<0.05$

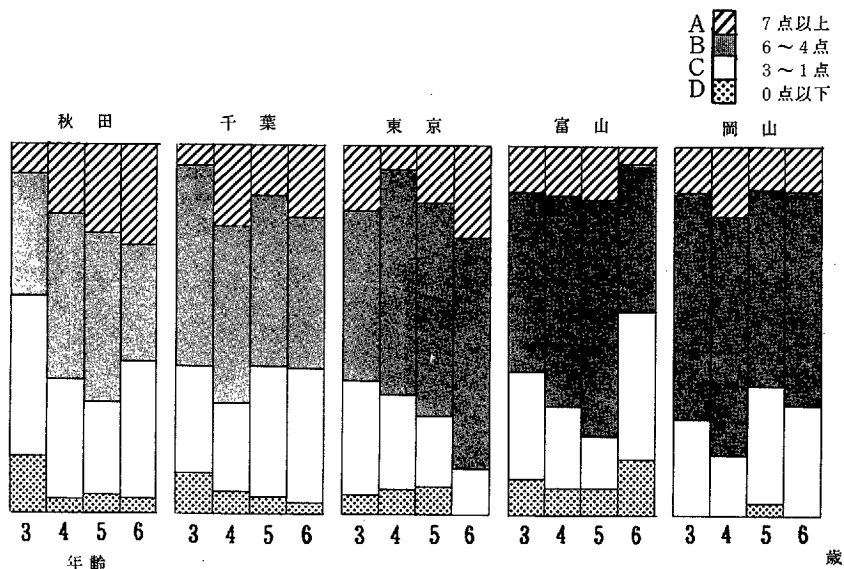


図10 地域・年齢別母親の養育点数

表17 食事トラブルと母親の職業

母親の職業有		(実数) %				
地域 トラブル数	秋田	千葉	東京	富山	岡山	合計
0	(39) 36.1	(45) 29.0	(22) 27.2	(21) 22.3	(39) 30.9	(166) 29.4
1～2	(45) 41.7	(70) 45.2	(38) 46.9	(57) 60.6	(58) 46.0	(268) 47.5
3以上	(24) 22.2	(40) 25.8	(21) 25.9	(16) 17.1	(29) 23.1	(130) 23.0
合計	(108) 100.0	(155) 100.0	(81) 100.0	(94) 100.0	(126) 100.0	(564) 100.0

$\chi^2=10.27$

母親の職業無 (実数) %

地域 トラブル数	秋田	千葉	東京	富山	岡山	合計
0	(24) 36.9	(33) 25.4	(7) 15.2	(8) 14.3	(27) 30.3	(99) 25.7
1～2	(22) 33.8	(49) 37.6	(15) 32.6	(33) 58.2	(32) 35.9	(151) 39.1
3以上	(19) 29.3	(48) 37.0	(24) 52.2	(15) 26.8	(30) 33.8	(136) 35.0
合計	(65) 100.0	(130) 100.0	(46) 100.0	(56) 100.0	(89) 100.0	(386) 100.0

$\chi^2=21.2$  P < 0.01

児の比率を地域別に比較すると秋田が36.1%と高く、富山は22.3%と低い。母親の職業無の場合、東京におけるトラブル3以上の児が52.2%と最も高率である。

食事トラブルと母親の職業との関係では、専業主婦の児にトラブル3以上の割合が多い。

(3) 食事トラブルと養育点数

食事トラブルと養育点数の関係をみたのが表18である。

食事トラブルと養育点数とは、地域による相違はみられない。しかし、対象児全体についてみると、トラブル有の母親は養育点数の低い者が多い。

IV 考 察

乳幼児の食行動と養育環境や養育態度との関係について地域別に検討した。その結果、食事トラブルの年齢別出現率、トラブルの数と種類、母親の養育点数、さらに、食事トラブルと祖母との同居や母親の職業の有無等に地域による相

表18 食事トラブルと養育点数

食事トラブル有		(実数) %				
地域 点数	秋田	千葉	東京	富山	岡山	合計
7以上	(22) 23.4	(28) 15.8	(15) 14.8	(15) 12.2	(20) 15.6	(100) 16.1
6～4	(41) 43.6	(85) 48.0	(54) 53.5	(66) 54.1	(74) 57.8	(320) 51.4
3以下	(31) 33.0	(64) 36.2	(32) 31.7	(41) 36.7	(34) 26.6	(202) 32.5
合計	(94) 100.0	(177) 100.0	(101) 100.0	(122) 100.0	(128) 100.0	(622) 100.0

$\chi^2=9.34$

食事トラブル無 (実数) %

地域 点数	秋田	千葉	東京	富山	岡山	合計
7以上	(17) 29.8	(16) 23.2	(4) 14.3	(2) 11.1	(11) 17.7	(50) 21.4
6～4	(32) 56.1	(35) 50.7	(19) 67.9	(13) 72.2	(34) 54.8	(133) 56.8
3以下	(8) 14.1	(18) 26.1	(5) 17.9	(3) 16.7	(17) 27.5	(51) 21.8
合計	(57) 100.0	(69) 100.0	(28) 100.0	(18) 100.0	(62) 100.0	(234) 100.0

$\chi^2=9.23$

違がみられた。

児の食事トラブルの年齢別出現状況は、東京と千葉が大きい年齢に、秋田・富山・岡山は小さい年齢に出現している。東京と千葉の家庭環境は核家族であり、母親の就労率も高い。そのうえ、対象児は1人子や第1子が多く、母親が育児に不慣れで、児の食事トラブルに気づくのが遅いためと考えられる。

秋田・富山・岡山は祖母との同居が多く、第2子以上の児も高率である。このことから、母親の過去の育児経験や祖母と児の関わりの時間が多いため、児のトラブルを早い時期に見つけることができると推察される。

井美らは<sup>3)</sup>出生の順位と偏食との関連について述べ、弓削<sup>4)5)</sup>は2歳児までは母親の就労が問題行動と有意に関係すると述べている。しかし、祖母との関係は井美らは認め、弓削は関係はないとしている。

本研究では、母親の職業の有無と食事トラブルについては、専業主婦の児のトラブル数が多

い結果であった。この点については、母親の職業の有無別に、地域別、年齢別に検討する必要があると考えている。また、祖母同居の方がトラブル数は少なく、祖母の存在が影響していると考えられる。

母親の養育態度<sup>3)-12)</sup>については多くの研究がなされているが、児の食事との関連で検討されたものは少ない。

本研究では、母親の養育態度の点数化を試み、児の年齢別、地域別に食事トラブルとの関連について検討した。

食事トラブルと養育点数との関係では、母親の養育点数が高い場合には、児の食事トラブルの出現率は低い。このことから、児の食事行動は、母親の養育態度とは無関係ではないと考えられる。

母親の養育態度の中で、愛情項目は東京、児への対応は岡山と千葉、環境項目は秋田の点数が高い。また、養育態度の平均値は秋田が高く、岡山が低い等、地域によって異なった傾向を示していた。

しかし、この結果は、地域による相違のみでなく、祖母との同居の有無や母親の養育条件、そして、きょうだいとの関わり等が影響していると考えられる。

乳幼児の食行動については、行動の状態や出現時期等、児の発達段階とも関わっているので、今後、事例的に経過観察を行い検討したいと考えている。

#### 文献

1) 八倉巻和子ら：乳幼児の食行動に及ぼす養育条件に関する研究：厚生省心身障害研究

報告書，119～129，1986

- 2) 厚生省児童家庭局：昭和55年乳幼児身体発育調査結果，1981
- 3) 井美昭一郎ら：幼児期における偏食と養育環境との関係について：小児保健研究 36(6)，272～279，1972
- 4) 弓削マリ子：乳幼児の育児環境と発達に関する縦断的研究（第2報）：小児保健研究：42(3)，354～364，1983
- 5) 弓削マリ子：乳幼児の育児環境と発達に関する縦断的研究（第4報）小児保健研究：44(1)，39～48，1985
- 6) 松波昭夫ら：家族形態と3歳児の養育に関する研究調査：小児保健研究，37(1)，33～38，1978
- 7) 斎藤敦能ら：都市幼児の健康・安全行動の形成に関する相互作用について 第1報：小児保健研究，41(2)，153～167，1982
- 8) 石田裕紀子ら：2歳児の母親の養育意識について：小児保健研究，39(5・6)，231～236，1980
- 9) 望月武子：母親の養育態度の推移：日本総合愛育研究紀要，10，253～260
- 10) 谷田貝公昭：親の養育態度に関する一試論：日本保育学会第29回大会要旨集，113～114，1976
- 11) 久保和男：母親の養育態度について：日本保育学会第35回大会要旨集，384～385，1979
- 12) 岡崎節子：母親の養育態度の一考察：日本保育学会第35回大会要旨集，386～387，1979

## Abstract

### Studies on Bringing-up Conditions Influencing the Eating Behaviors of Sucklings and Infants

Kazuko Yaguramaki\*, Teruko Murata\*, Kayo Morioka\*, Sachio Oba\*,  
Setsuko Omori\*\*, Akira Takano\*\*, Masahiro Takaishi\*\*

The relationship between the eating behaviors of infants and bringing-up conditions of their mothers was studied, classified by the area.

The subjects for the study were 1,185 infants at ages from 0 to 6 who were attending the nursery schools in Akita, Chiba, Tokyo, Toyama and Okayama prefectures.

The period for the study was from the end of October to the beginning of November, 1986.

The results are shown below:

#### 1. Living situations:

Nuclear families were found in higher percentages in Chiba and Tokyo, while three-generation families existed in higher incidence in Akita. The number of housewives who had employment was found more in Tokyo and Chiba, whereas those who had no employment existed in the highest percentage in Okayama.

The only and first-born child was encountered more in Tokyo and Chiba.

#### 2. Living style

In Akita children will get up early in the morning, and will eat supper early and go to bed early.

#### 3. Eating habits

In Akita all family members will eat meals together, whereas in Tokyo many infants will eat alone in the morning.

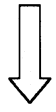
#### 4. Troubles at meals

The incidence of troubles at meals is 70% in Chiba, Tokyo and Okayama, but troubles at meals are few in Akita. As classified by the age, troubles were used to happen in higher ages in Tokyo and Chiba, and in lower ages in other areas.

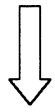
#### 5. Bringing-up attitudes of the mothers

High figures are given for mothers in Tokyo concerning the item of affection for children, while concerning the item of response higher figures are given for mothers in Okayama and Chiba, and concerning the item of environment Akita is the highest. Akita also gets the highest mark in the point for bringing up, followed in the order of Okayama, Tokyo, Chiba and Toyama.

6. Concerning troubles at meals in relation with living together with grandmothers and mothers' being employed, significant differences were noted in these relations.



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用 論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



### 要約

乳幼児の食行動と母親の養育条件との関連について、地域別に検討した。

調査対象は秋田・千葉・東京・富山・岡山県の保育所に通園している0~6歳児1185名。

調査時期は昭和61年10月下旬から11月上旬に実施。

結果は次のとおりである。

1. 生活状況:核家族は千葉と東京、三世代家族は秋田が高率である。有職主婦は東京と千葉、専業主婦は岡山が高くなっている。1人子、第1子は東京と千葉に多くみられる。
2. 生活行動:秋田は朝早く起床し、夕食や就寝時刻も早い傾向がみられる。
3. 食事状況:“全員で食事をする、は秋田に多く、“一人食べ、は東京の朝食にみられる。
4. 食事のトラブル:トラブル有の出現率は千葉・東京・岡山が70%で秋田は少ない。年齢別では、東京と千葉が大きい年齢に、他の地域は小さい年齢に出現している。
5. 母親の養育態度:児に対する愛情項目は東京、対応項目は岡山と千葉、環境項目は秋田が高率である。養育点数では秋田が最も高く、岡山、東京、千葉、富山の順である。
6. 食事のトラブルは祖母との同居、母親の職業の有無とに有意差が認められる。